



平成30年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年2月6日

上場会社名 丸大食品株式会社
 コード番号 2288 URL <http://www.marudai.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月14日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 百済 徳男
 (氏名) 加藤 伸佳
 TEL 072-661-2518

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	186,877	4.0	3,220	34.3	3,500	33.9	2,198	34.1
29年3月期第3四半期	179,665	0.5	4,900	11.8	5,296	13.8	3,337	22.8

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 4,418百万円 (9.4%) 29年3月期第3四半期 4,876百万円 (37.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	16.76	
29年3月期第3四半期	25.40	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第3四半期	146,496	79,384	53.9	602.94
29年3月期	129,339	76,290	58.6	577.20

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 78,919百万円 29年3月期 75,852百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期				8.00	8.00
30年3月期					
30年3月期(予想)				8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	240,000	3.3	3,000	36.3	3,300	38.6	2,100	36.1	16.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期3Q	132,527,909 株	29年3月期	132,527,909 株
期末自己株式数	30年3月期3Q	1,635,731 株	29年3月期	1,113,662 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期3Q	131,182,558 株	29年3月期3Q	131,415,788 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかな回復基調で推移しましたが、景気回復の実感が乏しいなかで、海外経済の動向による国内経済への影響が懸念されるなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

加工食品事業につきましては、お客様の根強い節約志向を背景に、競合他社との価格競争が一層激しくなるなど、厳しい環境が続いております。また、食肉事業につきましては、国産牛肉の相場が落ち着きを取り戻すなかで、国産豚肉の相場は前年を大きく上回りました。米国産の牛肉及び豚肉の現地相場は前年を上回る推移となりました。

このような状況のなか、当社グループは、お客様に、より安全でより安心して召し上がっていただける食品を提供する総合食品メーカーとして、真に社会的存在価値が認められる企業を目指し、「基幹事業の拡大と次なる柱の育成」「商品開発力、技術力の強化」などの基本方針を軸に企業活動を推進してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は前年同期比4.0%増の1,868億77百万円、営業利益は同34.3%減の32億20百万円、経常利益は同33.9%減の35億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同34.1%減の21億98百万円となりました。

セグメント別の業績の概況は、次のとおりであります。

【セグメント別業績】

(単位：百万円)

	売上高 (注)			セグメント利益		
	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減額 (増減率)	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減額 (増減率)
加工食品事業	127,050	129,427	2,377 (1.9%)	3,359	1,786	△1,573 (△46.8%)
食肉事業	52,502	57,332	4,830 (9.2%)	1,406	1,322	△83 (△6.0%)
その他	113	116	3 (3.1%)	134	111	△22 (△16.9%)
合計	179,665	186,877	7,212 (4.0%)	4,900	3,220	△1,679 (△34.3%)

(注) 売上高には、セグメント間の内部売上高は含まれておりません。

【加工食品事業 売上高内訳】

(単位：百万円)

	売上高		
	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減額 (増減率)
ハム・ソーセージ	69,086	68,407	△679 (△1.0%)
調理加工食品	57,963	61,019	3,056 (5.3%)

① 加工食品事業

ハム・ソーセージ部門では、「燻製屋熟成あらびきポークウインナー」などの主力商品を中心に、「わんぱくハロウィン 魔法のパーティーキャンペーン」などの販売促進を実施し拡販を図りました。また、食べごたえと食感が特長の「ブリッとパリッとあらびきポーク」などの新商品を積極的に展開しました。歳暮ギフトにつきましては、モンドセレクション最高金賞受賞の商品などを詰め合わせた「王覇」「煌彩」シリーズを中心に売上拡大に努めました。これらの施策を行いました。お客様の根強い節約志向を背景とした競合他社との価格競争激化などにより当部門の売上高は前年同期比1.0%の減収となりました。

調理加工食品部門では、「シェフの匠」シリーズなどのレトルトカレー商品や「ラッパーズ」シリーズなどのスナック商品の売上高が引き続き好調に推移しました。また、リニューアルしました「ドリアソース」シリーズを積極的に拡販しました。デザート・飲料類につきましては、「3層仕立てのジュレパルフェ」などが引き続き伸長しました。以上のことから、当部門の売上高は前年同期比5.3%の増収となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は前年同期比1.9%増の1,294億27百万円となりました。営業利益は、物流コストなどの上昇や、主力のハム・ソーセージ部門の売上高の減少などから利益率が低下し、前年同期比46.8%減の17億86百万円となりました。

② 食肉事業

国産牛肉は、相場が落ち着きを取り戻すなかで売上高は前年を上回りました。国産豚肉は、相場が前年を大きく上回るなかで引き続きブランド豚肉の販売に注力するなど売上高は堅調に推移しました。米国産牛肉及び豚肉の現地相場が前年を上回るなかで、米国産チルド牛肉は販売数量・売上高ともに大きく伸ばしました。鶏肉は、期初から売上高が順調に推移していましたが、当第3四半期は伸び悩みました。

以上の結果、当セグメントの売上高は前年同期比9.2%増の573億32百万円となりました。営業利益は、鶏肉の国内在庫に余剰感がみられ、採算が悪化したことなどから、前年同期比6.0%減の13億22百万円となりました。

③ その他事業

その他事業の売上高は前年同期比3.1%増の1億16百万円、営業利益は前年同期比16.9%減の1億11百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

〔連結財政状態〕

(単位：百万円)

	前連結会計年度末	当第3四半期 連結会計期間末	増減額
総資産	129,339	146,496	17,157
負債	53,049	67,112	14,063
純資産	76,290	79,384	3,093
自己資本比率	58.6%	53.9%	△4.7%

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、年末商戦による季節要因から受取手形及び売掛金が123億円増加したほか、有形固定資産が34億26百万円増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ171億57百万円増加し、1,464億96百万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金が62億67百万円、短期借入金が47億63百万円、未払金が32億8百万円増加したことなどから、前連結会計年度末に比べ140億63百万円増加し、671億12百万円となりました。

純資産は、剰余金10億51百万円の配当がありましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益21億98百万円の計上や、その他有価証券評価差額金が18億62百万円増加したことなどから、前連結会計年度末に比べ30億93百万円増加し、793億84百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末から4.7%低下し、53.9%となりました。

〔連結キャッシュ・フローの状況〕

(単位：百万円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,410	△485	△2,896
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,221	△4,724	497
財務活動によるキャッシュ・フロー	492	1,408	916
現金及び現金同等物の増減額	△2,317	△3,800	△1,482
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,683	12,569	△2,113

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却費の計上などがありましたが、運転資金の増加などによる減少要因から、4億85百万円減少しました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の売却による収入がありましたが、生産設備の増強・合理化や品質向上のための固定資産の取得による支出などから、47億24百万円減少しました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いなどがありましたが、有利子負債の増加などから14億8百万円増加しました。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物残高は、前連結会計年度末から38億円減少し、125億69百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期通期の連結業績予想につきましては、平成29年11月10日に発表の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,370	12,569
受取手形及び売掛金	25,925	38,226
商品及び製品	8,093	10,139
仕掛品	402	329
原材料及び貯蔵品	6,348	7,347
繰延税金資産	1,048	793
その他	1,325	1,208
貸倒引当金	△23	△33
流動資産合計	59,492	70,581
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	49,714	50,645
減価償却累計額	△35,003	△35,825
建物及び構築物(純額)	14,711	14,819
機械装置及び運搬具	53,862	56,272
減価償却累計額	△42,441	△44,036
機械装置及び運搬具(純額)	11,420	12,235
工具、器具及び備品	4,437	4,516
減価償却累計額	△2,868	△2,933
工具、器具及び備品(純額)	1,568	1,583
土地	19,056	19,018
リース資産	7,770	8,450
減価償却累計額	△3,048	△3,301
リース資産(純額)	4,722	5,149
建設仮勘定	326	2,426
有形固定資産合計	51,806	55,233
無形固定資産	1,083	1,797
投資その他の資産		
投資有価証券	12,338	14,878
長期貸付金	48	30
繰延税金資産	149	159
その他	4,564	3,954
貸倒引当金	△143	△138
投資その他の資産合計	16,957	18,884
固定資産合計	69,847	75,915
資産合計	129,339	146,496

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	23,348	29,616
短期借入金	4,537	9,300
1年内返済予定の長期借入金	1,992	1,460
リース債務	1,045	1,081
未払金	8,501	11,709
未払法人税等	933	317
未払消費税等	330	420
賞与引当金	978	323
その他	1,517	2,404
流動負債合計	43,184	56,634
固定負債		
長期借入金	2,638	1,887
リース債務	3,770	4,158
繰延税金負債	1,736	2,722
退職給付に係る負債	1,297	991
その他	423	718
固定負債合計	9,864	10,478
負債合計	53,049	67,112
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,716	6,716
資本剰余金	22,086	22,086
利益剰余金	43,678	44,825
自己株式	△512	△782
株主資本合計	71,968	72,845
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,039	6,902
繰延ヘッジ損益	0	△0
為替換算調整勘定	38	36
退職給付に係る調整累計額	△1,195	△863
その他の包括利益累計額合計	3,883	6,074
非支配株主持分	438	464
純資産合計	76,290	79,384
負債純資産合計	129,339	146,496

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	179,665	186,877
売上原価	136,802	144,781
売上総利益	42,862	42,095
販売費及び一般管理費	37,962	38,875
営業利益	4,900	3,220
営業外収益		
受取利息	17	14
受取配当金	167	141
不動産賃貸料	159	142
その他	356	268
営業外収益合計	700	566
営業外費用		
支払利息	154	135
その他	149	150
営業外費用合計	304	286
経常利益	5,296	3,500
特別利益		
固定資産処分益	33	169
投資有価証券売却益	3	73
特別利益合計	36	242
特別損失		
固定資産処分損	221	156
減損損失	67	15
投資有価証券評価損	—	0
特別損失合計	288	173
税金等調整前四半期純利益	5,045	3,569
法人税、住民税及び事業税	1,484	1,036
法人税等調整額	184	305
法人税等合計	1,668	1,341
四半期純利益	3,376	2,228
非支配株主に帰属する四半期純利益	39	29
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,337	2,198

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	3,376	2,228
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,138	1,862
繰延ヘッジ損益	17	△1
為替換算調整勘定	41	—
退職給付に係る調整額	293	331
持分法適用会社に対する持分相当額	9	△1
その他の包括利益合計	1,499	2,190
四半期包括利益	4,876	4,418
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,837	4,389
非支配株主に係る四半期包括利益	39	29

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	5,045	3,569
減価償却費	3,970	4,167
減損損失	67	15
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△22	4
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	137	157
受取利息及び受取配当金	△185	△155
支払利息	154	135
投資有価証券売却損益(△は益)	△3	△73
投資有価証券評価損益(△は益)	—	0
固定資産処分損益(△は益)	187	△12
売上債権の増減額(△は増加)	△12,410	△12,303
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,576	△2,976
仕入債務の増減額(△は減少)	6,139	6,255
未払消費税等の増減額(△は減少)	△858	90
未払金の増減額(△は減少)	2,066	2,485
その他	666	29
小計	3,378	1,391
利息及び配当金の受取額	324	279
利息の支払額	△146	△130
法人税等の支払額	△1,145	△1,183
特別退職金の支払額	—	△842
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,410	△485
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△25	△25
投資有価証券の売却による収入	9	216
固定資産の取得による支出	△5,372	△5,574
固定資産の売却による収入	364	725
その他	△197	△65
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,221	△4,724
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	3,165	4,763
長期借入れによる収入	122	—
長期借入金の返済による支出	△1,183	△1,282
リース債務の返済による支出	△683	△744
配当金の支払額	△920	△1,050
自己株式の取得による支出	△1	△269
その他	△5	△5
財務活動によるキャッシュ・フロー	492	1,408
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,317	△3,800
現金及び現金同等物の期首残高	17,001	16,370
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,683	12,569

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	加工食品 事業	食肉事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	127,050	52,502	179,552	113	179,665	—	179,665
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	711	711	△711	—
計	127,050	52,502	179,552	824	180,376	△711	179,665
セグメント利益	3,359	1,406	4,765	134	4,900	—	4,900

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代行業等を含んでおりません。

2 報告セグメントの利益計とその他事業セグメントの利益の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各セグメントに帰属しない賃貸等不動産について、回収可能価額の低下に伴う減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては67百万円であります。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	加工食品 事業	食肉事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	129,427	57,332	186,760	116	186,877	—	186,877
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	740	740	△740	—
計	129,427	57,332	186,760	856	187,617	△740	186,877
セグメント利益	1,786	1,322	3,108	111	3,220	—	3,220

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代行業等を含んでおりません。

2 報告セグメントの利益計とその他事業セグメントの利益の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各セグメントに帰属しない賃貸等不動産について、回収可能価額の低下に伴う減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては15百万円であります。